

Event

学生が主催する、農学部ならではのイベント!

収穫祭・農学部フェア

開催予定 2024 11/16 sat.-17 sun.

農学部学生が主体となって実施する「収穫祭」と、一般の方々に農学部を広く認知してもらう「農学部フェア」を毎年11月中旬に開催しています。収穫祭では、模擬店、ステージ企画、搾乳・収穫体験などを行っています。農学部フェアでは、ポスターや展示品による農学部の研究内容紹介、進学などに関する学生相談会を行っています。岡山大学農学部生と地域の方々が一緒に盛り上がるイベントです。



入試制度

※変更がある場合がありますので、「入学者選抜要項」をご確認ください。

募集方法	募集人員	選抜方法
一般選抜	前期日程 82人	共通テスト及び数学・理科・外国語
	国際バカロレア 3人	書類審査・面接
特別選抜	学校推薦型 (募集方法A)* (募集方法B)** 社会人 私費外国人留学生 (農学グローバル入試)	書類審査・小論文・面接 書類審査・小論文・面接 若干人 6人

*募集方法Aは、高等学校等の専門教育を主とする学科を卒業(見込)の者

**募集方法Bは、高等学校等の普通教育を主とする学科を卒業(見込)の者

入試に関する情報は
Webサイトを
ご確認ください



アクセス

- ①JR岡山駅運動公園口(西口)バスターミナルから「47」系統の岡電バスで「岡大入口」又は「岡大西門」下車
- ②JR岡山駅後楽園口(東口)バスターミナルから「17」「67」系統の岡電バスで「岡大東門」又は「岡大西門」下車
- ③JR津山線「法界院駅」下車、徒歩約10分



詳しくはWebサイトを
ご確認ください



岡山大学 農学部

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

お問い合わせ窓口：岡山大学自然系研究科等農学部事務室
Tel. 086-251-8286 (直通)
Fax. 086-251-8388

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/agr/>

岡山大学農学部

検索



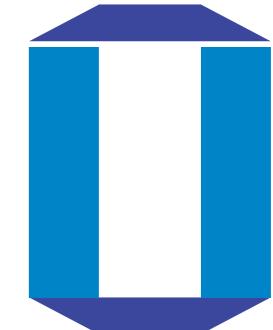
岡山大学

農学部

OKAYAMA UNIVERSITY
SCHOOL OF AGRICULTURE

● 総合農業科学科

- ・農芸化学コース
- ・応用植物科学コース
- ・応用動物科学コース
- ・環境生態学コース



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く

自然と生命を科学する



2025年度 学部案内



省力的食料生産と その安定性の向上

国際情勢の不安定化に伴う食料安全保障の視点からも、効率的な食料生産とその安定的供給の重要性が高まっています。農学は、ゲノム編集やAI・ICT技術等の新技術駆使を含め、持続的な食料生産を追究しています。

応用植物科学コース → P.05

食料生産

8 食料生産
9 食料生産技術

新たなブランド を開発

食の生産分野では、利用可能な動植物の効率的生産と消費者ニーズに応える生産物の付加価値向上が求められています。これらのニーズに加えて、農学は、地域の良質な食用動植物資源の地域ブランド化に貢献しています。

食の創生

応用動物科学コース → P.06

高機能食品で 健康を増進

農学は、私たちの健康維持に係る食品成分を探求し、それらの新たな機能性を明らかにするとともに、安心して健康増進できる科学的根拠を提供し、食品科学の視点で高齢化を含む暮らしに関する課題解決に挑んでいます。

健康

農芸化学コース → P.05



気候変動 森林の樹木を 守り育てる

地球温暖化に伴う気候変動は、森林の植生を変えるほど深刻な脅威です。農学は、生物多様性や生態系の維持、CO₂吸収とO₂供給、自然災害の軽減等に不可欠な森林を守り育てるための諸課題の解決に寄与しています。

国際的な食料問題に 日本ができること

人口増加に伴う飢餓の問題解決は人類にとって極めて重要な課題です。農学は、地球人口を賄うための食料生産性の持続的向上を目指し、動植物の改良や生産環境確保に資する研究開発と国際的技術移転を展開しています。

食料問題

環境生物学コース → P.06



地域の ニーズを 統計分析

地域の多様なシーズやニーズを正確に把握・活用して最適解を導き出し、そこに暮らす人々の幸福度を向上するためには、統計解析を使用し、先導する人材が欠かせません。農学はこのようなスキルを有する人材を育てます。

地域創生

環境生物学コース → P.06



食品加工・保藏に有用な 微生物制御技術を開発

微生物を利用した発酵・醸造技術は、食味や消化性の改善のみならず、有用物質の効率的生産や食品の長期品質保持を可能にしてきました。新たな微生物制御技術と先進技術の開発と適用は低炭素社会の実現に不可欠です。

農芸化学コース → P.05



1

一学科制で広い視野、深い専門性を獲得する



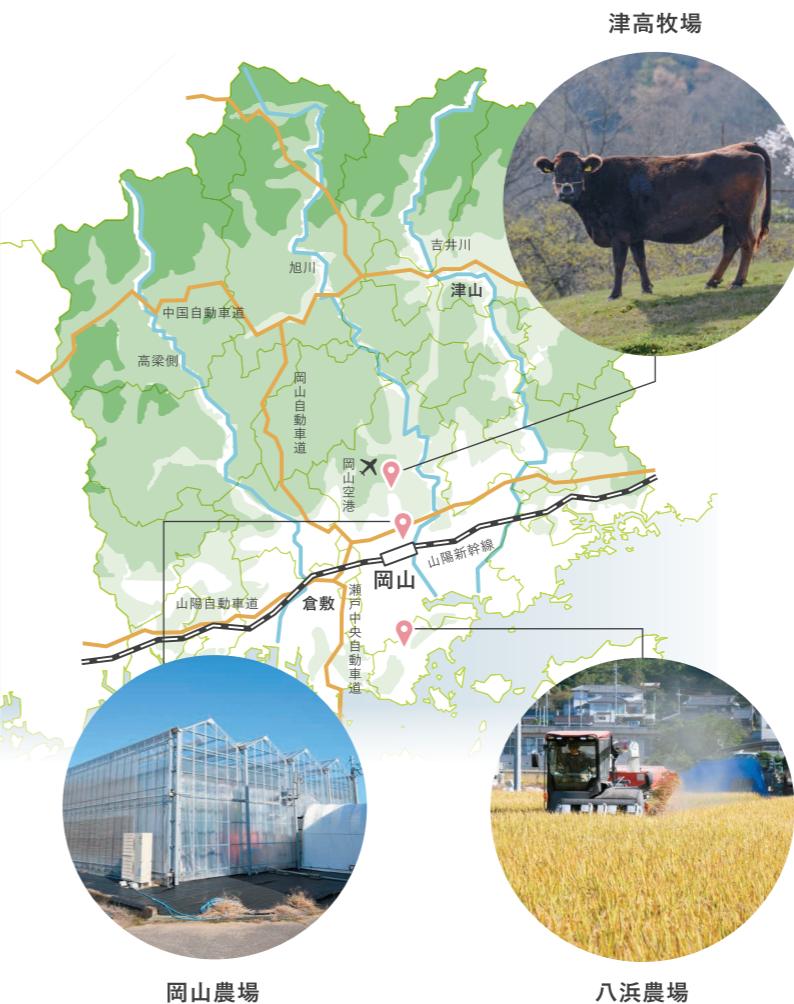
2

岡山ならではのグローバルな学び

多様な環境・地理性を生かした研究活動

岡山大学農学部では地域農業と国際的な農業をつなぐ実践的なグローバルな教育に取り組んでいます。

農場での実践的な教育を含めて様々な体験が可能なプログラムを提供しています。



グローバルとつながる

地域創生を先導する国際創農プログラム(INAF)

食・環境領域の国際共通課題への理解を深め、この領域にWell-beingをもたらす高度専門人材を養成するプログラム(INAF)では、日本人学生と留学生が互いの食文化をセミナーで紹介し、実践的農学科目と一緒に学んだりして相互理解を深めています。



SDGsを目指す産業体験講座

真庭市と協定を結び、「バイオマス産業体験講座」を開講しています。農業体験および施設見学を通して、地域の課題や今後の展望を肌で感じ理解を深めています。

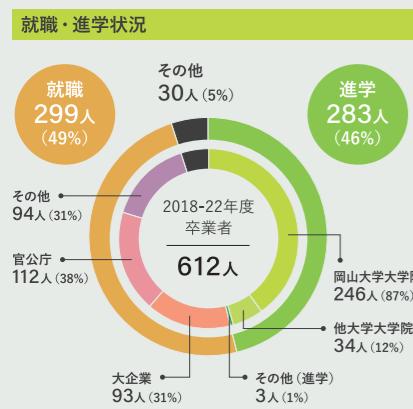


海外の大学における農業研修

タイ・カセサート大学で農業、環境、文化を学ぶ研修を行っています。講義以外で、フィールドワーク、タイの人々との交流を通じて、グローバルでローカルな経験ができます。



進路DATA



就職先機関・企業名

- 大学教員・研究者 岡山大学・京都大学・大阪大学・九州大学など、環境省・農林水産省／
- 公務員・教育関係 農林水産省、各地域経済産業局、林野庁、農研機構、岡山県、兵庫県など・高等学校教員(岡山県、兵庫県、広島県など)／
- 食品・医療・科学・流通関係 味の素、池田糖化工業、カゴメ、カバヤ食品、キッコーマン、キューピー、サントリーホールディングス、明治、山田養蜂場、ロッテ、石原産業、東洋紡、阪大微生物病研究会、日本食品分析センター、NTT西日本、両備システムズ、医療機関(胚培養士)／
- 農林業関係 JAグループ(全農、飼料会社など)、坂本産業、銘建工業、種苗会社、農機会社

資格・免許

所定の単位の修得により取得できる免許・資格

- ・高等学校教諭一種免許(理科・農業)
- ・食品衛生管理者(別途要申請)

受験科目の一部免除または受験資格を獲得

- ・家畜人工受精師(講習会の受講科目を一部免除)
- ・危険物取扱者試験甲種(受験資格)
- ・実験動物一級技術者(受験資格)
- ・食品衛生監視員(受験資格)

生殖補助医療技術(ART)キャリア養成特別コース

日本では不妊治療が盛んに行われており、卵と精子を体外で受精させ、培養・凍結保存を行う生殖補助医療技術者(胚培養士)として農学部出身者が多く活躍しています。本学農学部では、全国で初めての胚培養士養成のための特別コースを医学部と共同で立ち上げました。学部教育と両立し、胚培養士への道を拓きます。

大学院環境生命自然科学研究科

さらに高度な専門力を身につけたい学部卒業者には、高度な専門知識・技術を享受するための大学院博士前期課程・後期課程が設置されています。



農芸化学 コース

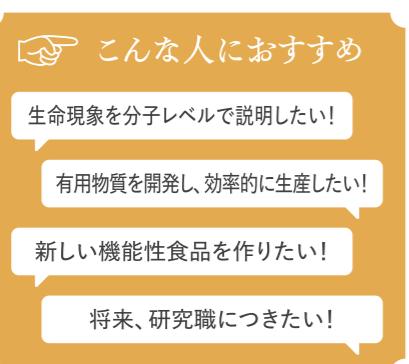


生命の仕組みと能力を化学的に探求し、生物資源を開拓

微生物から植物、ヒトを含む動物まで様々な生物を研究対象として、代謝産物、糖鎖、脂質、タンパク質、遺伝子などを分子のレベルで研究します。また、研究対象とする生物の細胞内外で行われる生命現象を化学の視点で解明します。ここで得られた知見は食品や医薬品の開発から環境保全に至るまで幅広く応用され、より良い暮らしとSDGsの実現のために貢献します。



詳しくはこちる



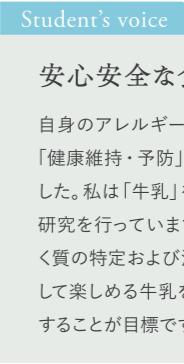
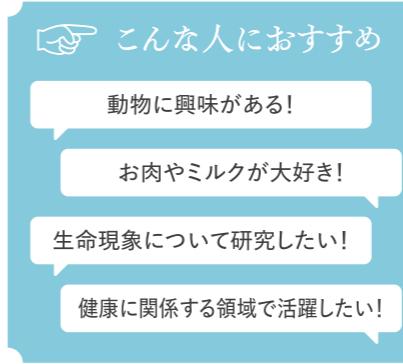
Student's voice

微生物の不思議を解明し、未来の環境問題に革新を
1年次の講義で微生物について興味を持つようになり、より深く研究するために農芸化学コースを選びました。微生物の魅力は、極めて過酷な環境でも生育できるという可能性の広さ。現在は好酸性微生物に焦点を当て、酸性環境への適応性に関する研究を進めています。最終的な目標は、微生物の特異な性質を活かして環境問題の解決に寄与することです。



微生物化学研究室4年
新田 優夏さん
福山誠之館高校（広島県）

応用動物科学 コース



食料生産や医療分野での動物の高度利用を幅広く追究

健康で豊かな生活に寄与する動物だけでなく、動物に由来する有用物質の効率的生産と応用を目的として、動物が持つ諸機能の解明や先進技術に関する教育研究を行っています。コースでは動物生命科学に関わる幅広い領域で活躍できる人材を養成しており、卒業生は、大学院進学や公務員・農業団体職員、企業（食品・医薬品等）、医療機関に就職しています。



詳しくはこちる

応用植物科学 コース

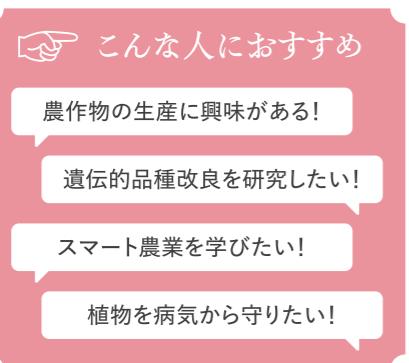


植物（作物）の生命現象を解明し、生産量増加を目指す

植物が持つ潜在能力を分子・遺伝子・個体レベルで研究し、その知見を実際の農作物生産に活かすための最先端の研究と教育を展開しています。また、農作物とその生産技術に対する多角的な理解を深め、さらに発展させるために、AIとICTを活用して農作物の成長を最適化する戦略を研究しており、農業生産の様々な課題に新しいアプローチで取り組める人材の育成を目指しています。



詳しくはこちる



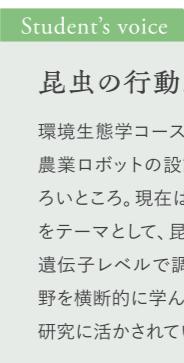
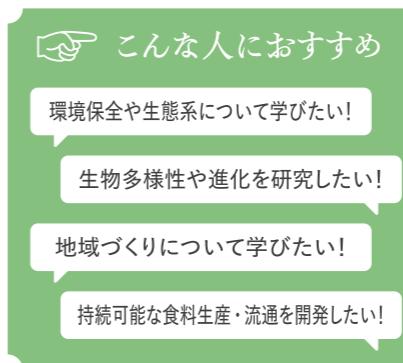
Student's voice

食料生産を遺伝子レベルで追究し、食卓を支える
食卓には欠かせない米の栽培についての、様々な課題があることを知り、どうにか解決できないかと考え、応用植物科学コースを選択しました。私は、稻の塩ストレス耐性を高める遺伝子の調査を行っています。耐性に関わる遺伝子は複数あり複雑に作用し合っているため、解明までは長い道のりですが、地道に研究を続けていきたいです。



作物学研究室4年
中西 智也さん
山城高校（京都府）

環境生態学 コース



限りある資源の利用・保全に多角的な視点で研究に取り組む

森林、草原、河川などの生態系の構造と機能、生物個体群の維持機構、生物多様性と生物進化の保全について、生態学的な観点から調査研究を行います。また、合理的な地域資源の活用と管理、効率的で持続可能な作物生産と流通体制について、社会学、経済学、システム工学の観点から研究開発を行います。これらの教育と研究により、国際的な視野に立って活躍できる人材を育成します。



詳しくはこちる



昆虫生態学研究室4年
小畠 琢資さん
白陵高校（兵庫県）



詳しくはこちる